

027 サマリアの女性との対話

ヨハネによる福音書 4 : 3～26

ヨハネによる福音書 4 : 1

01 さて、イエスがヨハネよりも多くの弟子をつくり、洗礼を授けておられるということが、ファリサイ派の人々の耳に入った。イエスはそれを知ると、02——洗礼を授けていたのは、イエス御自身ではなく、弟子たちである——・・・以上、ファイル No.026

03 ユダヤを去り、再びガリラヤへ行かれた。

04 しかし、サマリア Samaria を通らねばならなかった。

→BC722 年、アッシリア（→現在のイラク北部を占める地域に興った王国）は北王国（北イスラエル王国）を滅ぼし、多くの人々を連れ去った（列王記下 17 : 5～23）。残ったイスラエルの人々は、アッシリアやカナンから来た者たちと結婚し、後に彼らは自分たちの神殿をダンとベテルに建立し、祭司を選び、金の子牛を礼拝した。また、律法（モーセ五書）をサマリア五書に替え、独自に解釈（アブラハムがイサクを献げた山をモリヤの山から自分たちの神殿があるゲリジム山に変更した等）、モーセを大いに崇拝した。

首都サマリア周辺に暮らしていたことからサマリア人として知られるようになった。イエスの時代、ユダヤに暮らすユダヤ人たちはサマリア人がイスラエルの神に忠実でないと考えていたので、彼らを人種的、宗教的な理由で嫌悪していた（ユダヤの格言：「私の目が、サマリア人を見ることのないように」）。同じく、サマリア人も、ユダヤ人を軽蔑、敵対した（ユダヤ人がエルサレムから下ることは許したが、エルサレムに上ることは許さなかった）。現代もサマリア人の子孫たちが千名以下であるが存在している。



05 それで、ヤコブがその子ヨセフに与えた土地の近くにある、シカル (=Sychor=シケム) というサマリアの町に来られた。

→シカル：アブラハムが初めてパレスチナに来た時に滞在し、またヤコブが土地を買い取り、祭壇を建てた（創世記 12 : 6、33 : 18～20）。ヤコブは死ぬ前に息子のヨセフにこの地を与えた（創世記 48 : 22）。

06 そこにはヤコブの井戸があった。イエスは旅に疲れて、そのまま井戸のそばに座っておられた。（暑くて人がほとんど行かない日中の）正午ごろのことである。

→ユダヤ式：正午頃（AM 6 時から数える）、ローマ式：PM 6 時頃（AM 0 時、PM 0 時から数える）

07 サマリアの女が水をくみに来た。（公の場で男が女に話しかけることはないにもかかわらず、またユダヤ人がサマリア人に話しかけることもありえないにもかかわらず）イエスは、「**水を飲ませてください**」と言われた。

→イエスは、当時の人種的、宗教的、社会的な問題を無視して、女性に話しかけている。

08 弟子たちは食べ物を買うために町に行っていた。

09 すると、サマリアの女は、「**ユダヤ人のあなたがサマリアの女のわたしに、どうして水を飲ませてほしいと頼むのですか**」と言った。ユダヤ人はサマリア人とは交際しないからである。

→清めの規定を厳守するユダヤ人は、サマリア人と接触してはならず、ましてサマリア人の使う器やつ

るべから水を飲むことは決して許されなかった。

10 イエスは答えて言われた。「もしあなたが、神の賜物を知っており、また、『水を飲ませてください』と言ったのがだれであるか知っていたならば、あなたの方からその人に頼み、その人はあなたに生きた水を与えたことであろう。」

11 女は言った。「主よ（→先生、Sir）、あなたはくむ物をお持ちでないし、井戸は深いのです。どこからその生きた水を手にお入れになるのですか。12 あなたは、わたしたちの父ヤコブよりも偉いのですか。ヤコブがこの井戸をわたしたちに与え、彼自身も、その子供や家畜も、この井戸から水を飲んだのです。」
→ヤコブはシケム（シカル）近くのベテル（エル・ベテル）に祭壇を建てた。ユダヤ人同様、サマリア人もヤコブの子孫である。この女性は、イエスが先祖の重要人物の一人であるヤコブよりも自分の方が偉大だと言ったことに驚いた。

13 イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれでもまた渇く。14 しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」

15 女は言った。「主よ、渇くことがないように、また、ここにくみに来なくてもいいように、その水をください。」

→この女性は、イエスが絶えることのない水源を自分に与えてくれると思った。そうなれば、炎天下に毎日、井地の水を汲みに通わずに済んだ。

16 イエスが、「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい」と言われると、

17 女は答えて、「わたしには夫はいません」と言った。

イエスは言われた。「『夫はいません』とは、まさにそのとおりだ。18 あなたには五人の夫がいたが、今連れ添っているのは夫ではない。あなたは、ありのままを言ったわけだ。」

→イエスは、この女性が多くの男と暮らし、離婚、死別等で夫がいないことを知っていた。

19 女は言った。「主よ、あなたは預言者だとお見受けします。20 わたしどもの先祖はこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレム（→標高 754m）にあると言っています。」

21 イエスは言われた。「婦人よ、わたしを信じなさい。あなたがたが、この山（→サマリア人が神殿を建てたゲリジム山）でもエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。22 あなたがたは知らないものを礼拝しているが、わたしたちは知っているものを礼拝している。救いはユダヤ人から来るからだ。」

23 しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である（→原文：今がそれである）。なぜなら、父はこのように礼拝する者を求めておられるからだ。」

24 神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない。」

→イエスは、創造主（贖い主）に身と心をささげる真の礼拝は外面的な礼拝の形式や場所ではなく、神の霊に導かれることが重要であると答えている。

25 女が言った。「わたしは、キリストと呼ばれるメシアが来られることは知っています。その方が来られるとき、わたしたちに一切のことを知らせてくださいます。」

→メシアはヘブライ語（マシアハ）で油注がれた者の意。キリストはギリシア語のクリストス（油注がれた者）に由来する。

26 イエスは言われた。「それは、あなたと話をしているこのわたしである。」

イエスとサマリアの女との対話がきっかけとなって、シカル町のサマリア人の人々は、イエスがメシアであることを信じました。そして、これが神の福音がユダヤ人の世界から異邦人の世界へと広がる最初の出来事となりました。

出典（イエスとサマリアの女性：イメージ図）：www.findshepherd.com/samaritan-woman.html

【参考】ニコデモとサマリアの女

ニコデモ Nicodemus	サマリアの女 Samaritan Woman
ファリサイ派に属する最高法院（サンヘドリン sanhedrin）の議員 ファリサイ派教師（ヨハネによる福音書3：1）	自墮落で人目を避け、 不幸な人生にある（？）女性 過去五人の夫、今は男と内縁関係にある
エルサレム Jerusalem	サマリア/シカル（シケム） 現在のナーブルス Nāblus
ユダヤ人	サマリア人
男	女
宗教心があり、求めていた	宗教には無関心
尊敬されていた	軽蔑されていた
道徳的であった	不道徳であった
学問があった	無学であった
イエスとニコデモ Jesus Teaches Nicodemus John 3 (NIV)	イエスとサマリアの女 Jesus Talks With a Samaritan Woman John 4 (NIV)

【参考】金の子牛

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 3 / 聖句等の総数 33250 <金の子牛>3個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: 金の子牛]
K 列王記上	12:28 彼はよく考えたうえで、金の子牛を二体造り、人々に言った。「あなたたちはもはやエルサレムに上る必要はない。見よ、イスラエルよ、これがあなたをエジプトから導き上ったあなたの神である。」	
K 列王記下	10:29 ただ、イスラエルに罪を犯させたネバトの子ヤロブアムの罪からは離れず、ベテルとダンにある金の子牛を退けなかった。	
K 歴代誌下	13:8 そして今あなたたちは、おびたしい軍勢と、ヤロブアムがあなたたちのために造って神とした金の子牛を頼みとして、ダビデの子孫の手にある主の王国に立ち向かおうとしている。	

